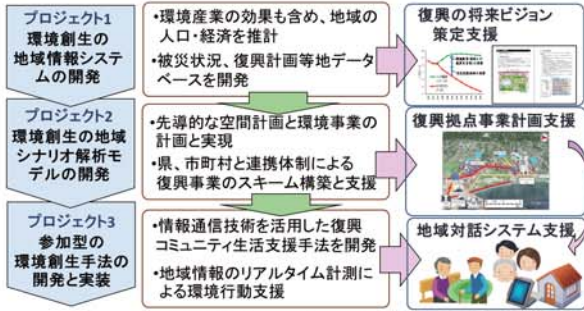


ポスター 11 地域環境評価に基づく環境配慮型復興まちづくり支援

環境創生研究の枠組み

東日本大震災被災地の復興に向け、社会調査やシミュレーションの技法を駆使して、地域社会・地域環境にも適した事業や計画づくりのお手伝いをしています。



環境創生研究の全体構成

災害環境研究へのニーズ抽出

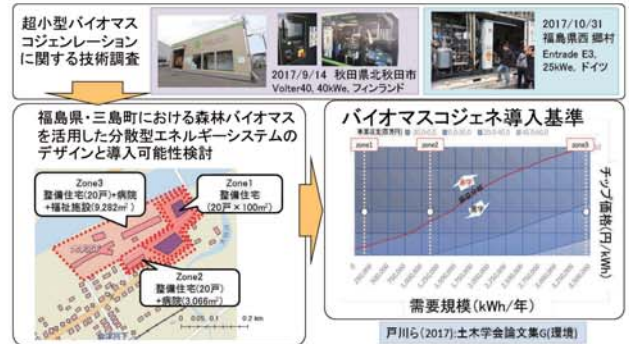
分析方法 役場や地域団体などのステークホルダーへのインタビュー
対象地域 福島県三春町

三春町におけるインタビュー調査の結果

	「放射線対策を進めながら、森林資源の保全と利活用の方向性を見出したい」 [除染担当]
	「畜産にかかわる地域資源の循環の仕組みを構築したい」 [産業担当]
三春町役場	「イノシシ・ハクビシン等の効果的な鳥獣害対策をすすめたい」 [産業担当]
	「町の放射線対策の教訓を次世代に継承したい」 [企画担当]
	「まちづくり協会の活動を活性化させたい」 [総務担当]
地域住民組織	「まちづくりの担い手を育成し、増やしたい」
	「町外で働いている若い世代のまちづくりへの参加を促したい」
農業団体	「遊休農地を活用して農業生産に結びつけたい」
	「若い農業の担い手・農業の後継者を育成したい」

地域のバイオマス資源を活用する自治体の計画支援

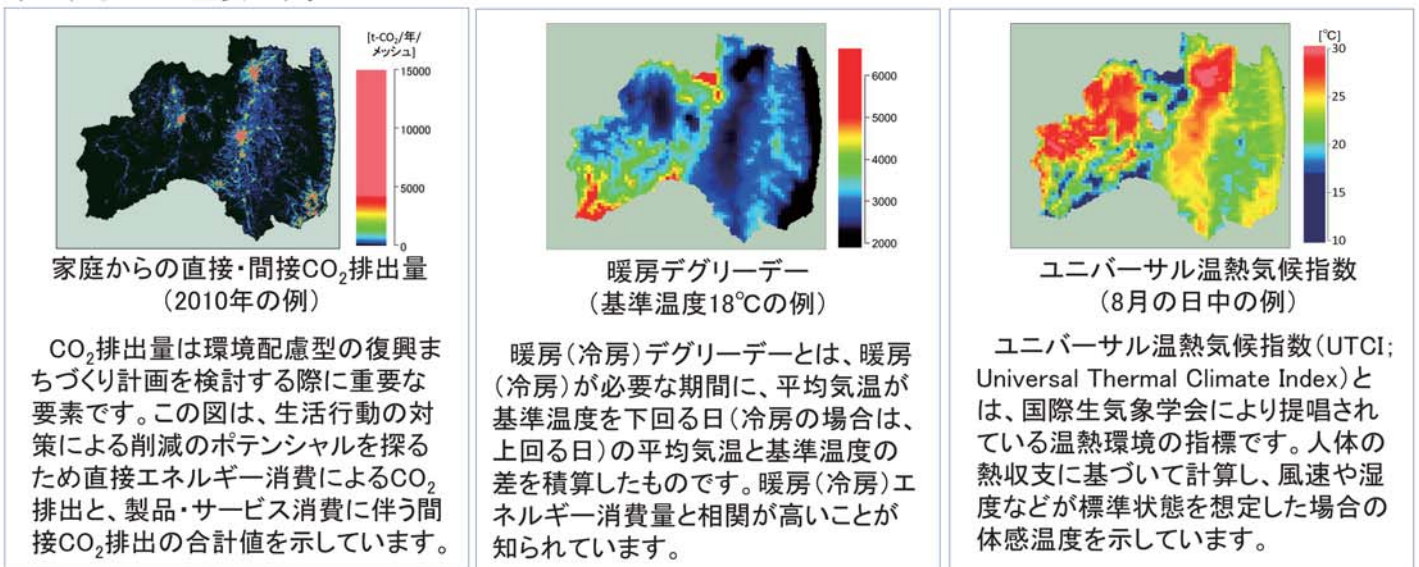
これまでに様々な自治体と協議しながら進めてきた地域エネルギーシステム計画の研究を発展させ、バイオマスを活用する中小規模の自治体事業の計画を支援する研究を進めています。このため、バイオマスコージェネレーションを含む複合的なシステムの導入可能性について、福島県・三島町の中心地区を対象としたシミュレーション分析を実施しました。そして、自治体職員や地域住民と情報を共有し、実現可能性の調査を行いました。



三島町における木質バイオマス利用の検討事例

福島県におけるさまざまな地域環境評価の水平展開

研究の知見を実際の復興まちづくり計画で活用するためには、詳細な地域条件を踏まえて地域のニーズに即した計画を考える必要があります。そのためには地域環境評価の事例を水平展開し、さまざまな地域で比較できるようにすることが重要です。



地域環境評価の水平展開の例